



# OTESÁNEK

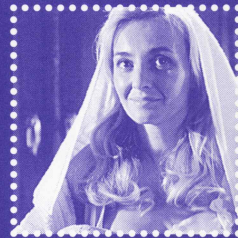
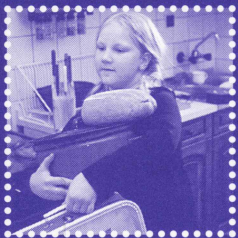
ヤン・シュヴァンクマイエル最新作



オテサーネク

— 妄想の子供 —

父性という過剰さ。母性というエゴイズム。無邪気さという暴力。残酷なのは、人間なのか？自然なのか？運命なのか？



『アリス』『ファウスト』『悦楽共犯者』と、独自の映像世界を造形してきたシュヴァンクマイエルの待望の最新長編『オテサーネク』がいよいよ公開!! チェコのアートアニメーションの作家として世界的に評価の高いシュヴァンクマイエルが今回題材として選んだのはチェコの民話。子供のいない夫婦が木の切り株を子供として育てると、その子供・オテサーネクは大鍋のおかゆを平らげ、犬や豚や農夫、果ては両親まで飲み込んでしまう。この寓話を現代の不妊の夫婦に重ね合わせ、『アリス』と同様、少女の視点を通して描く本作は、グリム童話に通じるブラックなユーモアとグロテスクさを合わせ持ち、ベルリン映画祭でアンジェイ・ワイダ賞、ビルゼン映画祭でグランプリなど各地で絶賛されています。

原マサミ (ミュージシャン)

細ひとつのキャラ別を平らげたところで物語を切り上げたのは、彼の食事を中断させぬ故、耳毛一本とてその胃袋から掃蕩させぬ故。果たせるかな、キャラ別には消化を助ける酵素がたっぷり含まれてます。早晚ローローは、この世の何もかもを喰い尽くさる。オテサーネクこそ、かないし連類の中にいる者たち自らが創造した、救いのアポトーシスである。

長島有里枝 (写真家)

怖い夢を見た日、天井の目がお化けややまんばに見えたときみたいに、夢とも現実ともつかない不思議な気分になる。昨今のハリウッド映画のようなスゴさよりずっと観る側の想像力と感受性を刺激するスゴさを感じた。随所に出てくる食べ物の映像がグロテスクで大好き。

竹谷隆之 (造形家)

私は架空のものを具象的に立体化する仕事をしていますが、何故かシュヴァンクマイエルのシュールな世界に、キョーレツに惹かれてしまいます。以下、ホメ言葉。理解が及ばない(とこがある)。理屈が通じない(ところがたくさんある)。決して"最大公約数向け"ではない。とにかく遠い所に連れて行って。食い物がマズそうな振り方がサイコウ。... などなど、ハリウッドの"朱、"に交わらないのがスバラシイ!

松尾スズキ (作家・演出家・俳優)

「オテサーネク」「オテサーネク」「オテサーネク」。『オテサーネク』の言い間違い方はいっぱいあるが、シュヴァンクマイエルの人間の欲望のグロテスクの描き方は非常に間違っていない!

法月綸太郎 (作家)

「普通だけど、どこかサイコな人間たちのリアルな生の営みをバズルのピースのように支配する無慈悲なバベット・マスター——伝説の肉食いモンスター"オテサーネク"は、虚実の皮膜をすり抜ける"見立て"の想像力そのものだ!」



『オテサーネク』は、子供の童話として知られていますが、実はそうではないのです。この話は何度も読んでいるのに、恐らく読み方が表面的だったのでしょう。なんと深いテーマが隠されているのだろう、と気づきました。そして私は物語の続きを考えたのです』



ヤン・シュヴァンクマイエル



URL: <http://plaza19.mbn.or.jp/~rencom/>  
「オテサーネク」のホームページ  
(シュヴァンクマイエル夫妻来日日程掲載)

たま・知久寿焼 (ミュージシャン)

ヒトのつくった、この一見安全な世の中はきゅうくつだ。きゅうくつなのでちよとはみだしてみると「狂ッテル」と言われてしまう。ああ、きゅうくつ。でもきゅうくつならの答えは絶対ありません。その人傑とゆうもんです。だって、はみだす部分ていうのは、かくしてめくかききれない、本来ともとあるものなのだから。映画「オテサーネク」は「狂ッテル」、ちゃんと狂ってる。

清水靖晃 (サックス演奏者・作曲家)

なんだかんだと申しましてこの世で一番不思議で更に書きなのは「生きている!」ということ。いやいや科学からの答えは絶対ありません。それより答えが出なくてムズムズするもどかしさこそ我が宝!!! ヤン・シュヴァンクマイエル監督の作品では、いつもそのもどかしさに触れるよ。

戸川純 (女優・ミュージシャン)

「出て来る人間のナチュラルさ(俳優の、ギミックを避ける様な演技)。と、クレイムムービーに代表されるコマ撮りに換るアナログ特有の「観る側に、ここちよい不快感を与える、オテサーネクという名の木株という物のメチャクチャ不自然な感じ。そのコントラストとその見事な融合が面白い。CGに慣れていたしまった現代に、この映像と民話が出来持ったシュールな展開が新鮮だ。」

山本直樹 (マンガ家)

恐いっす! つかながらヤン先生のアニメは恐いっす! つか加減というものを知らなからハリウッド汁にいつのまにかどっぷり浸かってしまってる僕らの脳には、とどきつきで行けないくらい恐いっす!

嶽本野ばら (作家・エッセイスト)

多くの健全な人々はこの作品をブラックユーモア溢れるファンタジー、もしくは異色のホラーとして愉しむのでせう。しかし僕を含め、一部の限られた人達にとってこの寓意的な作品世界は認めたくなけれども現実的なのです。

[CAST] ホラーク夫人(ヴェロニカ・ジルコヴァー)、ホラーク(ヤン・ハルトツル)、シュテッドレル夫人(ヤロスラヴァ・クレチメロヴァー)、シュテッドレル(バヴェル・ノヴィー)、アルジュビェトカ(クリスティーナ・アダムツォヴァー)、アパートの老人(ズデニェク・コザーク)、アパートの管理人(ダグマル・ストジールナー)、警官(イジー・ラプス)、ソーシャルワーカー(イトカ・ムトナー)  
[STAFF] 原案・脚本・監督: ヤン・シュヴァンクマイエル 美術監督: エヴァ・シュヴァンクマイエロヴァー、ヤン・シュヴァンクマイエル アニメーション: ペドジフ・グラセル、マルティン・クブラーク 編集: マリ・エゼマツォヴァー 音響: ヴォイシュパヴィイ 撮影: ユライ・ガルヴァーネク プロデューサー: ヤロミール・カリスタ 製作: アタル(チェコ)、イルミネーションズ・フィルムズ(イギリス)、フィルムフォー(イギリス) 『オテサーネク』

配給: チェスキー・ケン・レン コーポレーション / 後援: チェコ共和国大使館 / 協力: ヤプロネックス JABLONEX

ヤン・シュヴァンクマイエル『オテサーネク』(ストーリーブック) 工作舎 (03-3465-5251) より絶賛発売中!! (1600円+税抜)

1月26日(出)より 待望のロードショー

前売鑑賞券 ¥1,400 (税込) 発売中!

梅田スカイビル(空中庭園) タワーイースト3F  
シネ・リーブル梅田 06(6440)5930  
連日 11:15 1:50 4:25 7:00



ヤン・シュヴァンクマイエル展 開催!  
12/20(水)~1/27(日)  
難波センタービル 無印良品内 リプロ難波店4F

2月下旬ロードショー  
大丸東側 神戸朝日ビルB1F  
シネ・リーブル神戸 078(334)2126  
2月下旬ロードショー  
九条大宮すぐ、近鉄東寺駅西へ150m  
京都みなみ会館 075(661)3993